

## 対話文中における“有点儿”の機能

大島 吉郎

### A Pragmatical Analysis of “youdianr 有点儿”

OSHIMA Yoshiro

#### 内容提要

本文主要从语用的观点来探讨汉语副词“有点儿”在对话中的功能。

“有点儿”有两种相反的用法。

- 1) 用于“不如意”的事情。
- 2) 用于不一定是“不如意”的事情。

1、2都表示“略微”“稍微”等意味。

说话人在对话中选择“有点儿”而不用“一点儿”就是因为要避免“比较”的意思。

说话人用“有点儿1”是对听话人表示客气的语气的。这时候听话人非得揣测说话人的心理状态不可。

#### 目次

0. はじめに

1. “多用于不如意”をどう解釈するか

## 2. 意味から見た“有点儿”の解釈

### 2.1 「好ましくない」ことに関する事例

### 2.2 「その他」の事例

#### 2.2.1 形容詞

#### 2.2.2 動詞

##### 2.2.2.1 心理活動

##### 2.2.2.2 思考

##### 2.2.2.3 判断

##### 2.2.2.4 身体部位の動作

##### 2.2.2.5 身体部位の状態

## 3. 発話の意図

## 4. おわりに

注

参考文献

引用書目

## 0. はじめに

入門、初級の段階では“有点儿”と“一点儿”はセットで説明されることが多い。

例えば『WHY?にこたえるはじめての中国語文法書』（第15課 p. 146）では、次のように述べる。

“有点儿” *yǒu diǎnr* は「ある基準や期待値と少しズレがある」と感ずることを表す「ちょっと」の意味の副詞です。これとよく似た語に、わずかな量を表す“一点儿” *yí diǎnr* があります。“有点儿”は形容詞の前、“一点儿”は後ろ、と使い分けます。

有点儿冷。（ちょっと寒い——イヤだなちょっと寒くて）

今天比昨天冷一点儿。（今日は昨日より少し寒い）

この両者は同じ「ちょっと」でも“有点儿”の方には「ちょっとイヤだな」という不本意な気持ちが含まれ、“一点儿”は比較したその差が「わずか」であるという客観的な差異を表します。

この記述から、語順と意味について整理しておくことにする<sup>(注1)</sup>。

---

A類：有点儿 + 形容词

ある基準や期待値と少しズレがある

「ちょっとイヤだな」という不本意な気持ち

B類：形容词 + 一点儿

比較の結果

差が「わずか」という客観的な描写

---

A類「不本意な気持ち」という表現は、

《现代汉语八百词》(p. 631)

〔副〕表示程度不高；稍微。多用于不如意的事情。

に基づくものと推測される<sup>(注2)</sup>。“有点儿冷”が「不本意な気持ち」を表わすとするれば、話者自身の心情を、聞き手はどのように斟酌すべきであろうか。単なるコメントとして聞き流すのではなく、話者の心理に一步踏み込んだ解釈の余地が残されているように考えられる。

小稿はA類に関して、主に対話文中における話者の発話の「本意」、あるいは「意図」がどこにあるのか語用論の面から探り、その一端を明かにしようとするものである<sup>(注3)</sup>。

## 1. “多用于不如意”をどう解釈するか

《现代汉语八百词》“有点儿”の項には先に引用した概略的説明に加えて、次のような小項目が四つ立てられ、用法、意味について解説している。例えば、

a) 有点儿 + 形 / 动。形容词、动词多半是消极意义或贬义的。形容词、动词之前可以加‘太’。

- b) 有点儿 + 不 + 形 / 动。形容词、动词多半是消极意义或贬义的。
- c) ‘有点儿’ 有时与 ‘稍微’ 连用。
- d) ‘有点儿’ 可以单独回答问题。

“多用于不如意”を受けての説明が“多半是消极意义或贬义的”という表現であると考えられる。しかし“多用于”あるいは“多半是”と書かれるもう一方の部分についての記述は行われていない。a) には次のような例が手掛かりとして示されるのみである。

这个人 ~ 面熟。

我 ~ 想去又 ~ 不想去。<sup>(注4)</sup>

では実際にどのような語句が“有点儿”とともに用いられるのか、インターネットを使って検索した結果を見てみることにしたい。

配列は“拼音”字母順に依る<sup>(注5)</sup>。

爱说笑 暧昧 傲

霸道 白 悲哀 背 笨 扁 变味 表示 别扭 不安 不大好过 不懂

不对 不对劲 不服气 不尴不尬 不甘心 不公平 不够意思 不顾章法

不好听 不好意思 不讲理 不满 不明白 不耐烦 不认识自己 不适应

不爽 不死心 不太懂 不同意 不妥 不习惯 不相信 不雅相 不一样

不知所以措 不自信

猜疑 差 诧异 缠绵 颤抖 长 唱不下去 超前 沉重 成熟 吃不消

迟 迟钝 冲突 崇洋媚外 惆怅 丑 出乎意料 出神 喘不过气 粗

粗疏

打结 大男子主义 担心 胆怯 挡脚 得意 嘀咕 底气不足 抖 堵

多 多情

恶心 饿 扼腕

发白 发红 发蒙 发懵 发紫 反喟 烦 泛滥 犯懵 愤怒 疯

干 尴尬 刚识几个字 高 高兴 耿耿于怀 挂不住 挂心 怪 怪怪的

贵 过度开发 过份 过够

害怕 害羞 好 好奇 黑 横行霸道 红 后悔 忽略 胡扯 糊涂  
怀疑 坏 荒唐 黄 晃 灰 浑 混乱 火  
激动 急 急功近利 极端 嫉妒 寂寞 贱 降 娇 紧张 精神不济  
精神分裂 精神恍惚 简单 惊恐 惊人 惊险 惊讶 久不见 旧 倦  
觉得反感  
开玩笑 开心 看不懂 渴 可笑 空 哭笑不得 苦 酷 夸张 宽 狂  
困惑  
辣 来不及 蓝 懒得回答 滥 狼狈 累 类似 类似于资源 冷 冷傲  
冷清 离谱 离奇 凉 了不起 鲁莽 乱 啰嗦  
麻烦 慢 漫不经心 忙 盲目 毛 冒险 没进入状态 美中不足 媚  
闷 迷离 腴腆 面熟 明白 明知故问 莫名奇妙 陌生 母性崇拜  
那个 纳闷 难 难看 难考 难启口 难受 难以接受 恼火 恼人 嫩  
逆转 粘 粘乎  
怕 蹒跚难行 胖 疲惫 偏幻想 偏激 偏颇 贫 普通  
奇怪 气 气急败坏 气馁 牵强 强 俏 俏皮 且顾眼前 勤 清高  
轻率 缺 缺乏决断力  
让人不适应 让人吃惊 让人看不懂 让人受不了 热 认识 肉痛 软  
弱智  
沙哑 傻 傻眼 山山的 善 伤心 上火 上了轨道 上瘾 少 舍不得  
深 神秘 生疏 湿 失落失望 瘦 受惊 爽 说不清 俗 素 酸 酸  
酸的 随心所欲 stupid  
太冤了 烫 逃避现实 特别 疼 疼痛 提不起笔来 甜 甜蜜 贴边  
痛 痛快 头脑发热(了) 头晕 凸 突然 吞吞吐吐 驼  
歪 外凸 顽固 晚 望而生畏 温柔 文不对题 窝囊 无聊无理 无奈  
无所谓  
喜悦 吓势势 先天不足 险 羡慕他 想当然 想上阵 想笑 像  
像妓女 像农村经济 像王小波 像我老婆 像吴启华 潇洒 消化不良  
消受不起

消息不灵通 小 小看 小气 邪 斜 新 心动 心神不定 心虚 兴奋  
熊 羞答答 虚 悬 玄 血淋淋的  
压抑 眼热 痒 养颜功效 野 遗憾 溢 意外 抑郁 阴森森 阴天  
硬 臃肿 忧伤 忧郁 优雅 愚蠢 与众不同 郁闷 冤 远 晕  
脏 糟 糟糕 张狂 丈二和尚摸不着头脑 着急 找不着 找死 争议  
执拗 肿 重 自豪 自己找死自说自话 醉

---

品詞という点から分類すれば以下のようなになる。

- 1) 形容詞 (句)
- 2) 動詞 (句)
- 3) 成語・慣用句
- 4) 指示代名詞“那个”<sup>(注6)</sup>

現われる語句を見てみると“消极意义或贬义”のものが大半を占めているのが分かる。しかし、中には“得意”“高兴”“好”“了不起”“面熟”“善”“温柔”“喜悦”“像”“优雅”など、必ずしもその範疇には入らない語も見られる。これらの語が“多用于”あるいは“多半是”と書かれる語群のもう一方の部分といえるようである。では、その範囲をどのように確定することができるだろうか。

## 2. 意味から見た“有点儿”の解釈

伊地智善継編『白水社中国語辞典』(2002年2月初版 p. 1835)はこのような疑問に、ある一定の結論を与えてくれる。例えば、

(〔‘有点儿’ + 消極的意味を示す動詞・形容詞〕〔‘有点儿’ + 積極的意味を示す動詞・形容詞〕の形で用い) ちょっと、少し。≡有一点、有些。

①好ましくない状態・性質を直接的に述べることを避けて控えめに表現したり、時に程度が甚だしいのにわざとそれをアイロニカルに言って相手に理解させようとする場合。

②心理活動や発展・変化の程度が高くないことを示す場合。

③ ‘稍微’ と共に用いて「少し」の意味を強調する場合。

しかし、②の記述だけでは上記の語ついで範囲をカバーしきれない。また、「程度が高くないこと」、すなわち「少し」であることを示すのであれば、“一点儿”が用いられるのが一般的であるが、これを避けて“有点儿”を使う理由までは述べられていない。

以下、順をおって事例を検討して行くことにしたい。

## 2.1 「好ましくないこと」に関する事例

“有点儿”に関する「不本意」、「望ましくない」、「好ましくない」「困ったこと」などの表現は、いずれも話者がどう感じているかを表わしているものであるから、小稿では「好ましくない」という言い方でこれらを総称することにした。伊地智2002では①に該当する。

では、テキスト類の中でどのように取り上げられているか、具体例について見てみることにしたい。例えば、

(1)

护士：25号，请进来。

大夫：你怎么了？

病人：我发烧，头疼得厉害，不想吃东西。

大夫：咳嗽吗？

病人：有点儿。

大夫：你是什么时候开始不舒服的？

病人：昨天下午我觉得有点儿发烧，晚上又开始头疼。

(东方书店1991年刊《实用汉语课本》第2册第46课365页)

せき、熱など病気の症状についていうときには“有点儿”を使うケースが一般的である。医者への質問に客観的に答える際にも、患者は“一点儿”を用いず“有点儿”で応じている。医者がどう処置しようとするかはともかく、「少し」のせきや熱でも、患者にとっては「困る」ことを伝え、治療を望む気持ちを表わし、医者への治療を促す効果が期待されているものと考えられる。

つまり、話者は程度を問題としているのではなく、聞き手の反応（行動）を

期待して“有点儿”を用いている点に、“有点儿”の重要なはたらきの一端を認めることができるのではなかろうか。

対話文中における話者と聞き手の行動をパターン化してみよう。

[1]

---

話者：1) “有点儿”を用いて好ましくない(困っている)状況を控えめに伝える

2) 相手の反応を遠まわしに期待する

聞き手：1) 相手がどうしてほしいと思っているのか感じ取る

2) 反応を示す(行動に移す)

---

このような推論の基づき、次の例を検討してみることにしたい。

(2)

帕兰卡：古波，咱们从天安门走到这儿，我又累又饿，真走不动了。

古波：是啊，咱们还没有吃饭呢，我也有点儿饿了。咱们找个饭馆吧，你看，那个女同志走过来了，我去问问。(问女同志)同志，请问这儿有饭馆吗？

(《实用汉语课本》第43课285页)

古波は自分も空腹であることを述べるが、空腹の程度が「少し」を言おうとしているのではないのは明かである。がまんでくる程度の多少の空腹であれば、わざわざ人にレストランの場所を尋ねる必要もない。“有点儿”を用いるのは、聞き手であるパランカに、食事をしようにもレストランの場所がわからないので、自分がレストランの場所を人に尋ねる行為を認めてほしいという気持ちを込め、彼女の反応(承諾)を期待しての発話であろう。単なる monologue としての「ちょっといやだな」では、古波の行動を理解することが難しい。別の観点からは、歩き疲れて空腹であるパランカへの配慮としての発話とも取れる。

相手への要求が端的に表われるのは買い物の場面であろう。例えば、



(3)

A：请把那双布鞋拿给我看看。

.....

B：您穿多大号的？

A：大概是二十五公分的。

B：这双您试试看。

A：有点儿小。

B：这双怎么样？

A：又稍微大了点儿，有小半号的吗？

B：有。

A：大小正合适，就要这双吧。

(北京语言学院1981年刊《口语初步》第21课223页)

客が“有点儿”を使うことにより、店員はすぐに別の商品を取り出し、ためてもらっている。もし、店員がただ単に客の monologue としてしか聞いていなければ、そのような行動は起り得ないであろう。客はもちろん、店員の次の反応(行動)を期待していたはずである。くつのサイズを客観的に言おうとしているのではなく、サイズが「小さすぎて」合わないから換えてほしいという意志表示と考えられる。せっかく出してくれたくつが合わなかったことに対する婉曲(「控えめ」あるいは遠まわし)な表現の方法である<sup>(注7)</sup>。“稍微大了点儿”が客観的に言おうとしているのとは対照的である。

次の例も同様に考えられる。例えば、

(4)

A：头等舱在上面，咱们从这边上。

B：咱们到甲板上去看看吧。

A：两岸的风光真美！

B：你怎么啦？

A：我有点恶心。

B：你大概晕船了，我这儿有止晕药。

（上海教育出版社1987年刊《汉语口语900句》第396页）

相手の様子がどこか変なのに気づいて尋ねるのが“你怎么啦？”。Aは船酔いのために「少し」吐き気がすると控えめに答えているが、聞き手は聞き逃すことなく酔い止めの薬が用意されていることを伝えている。「好ましくない」事態が話者に起っていることを受けて、聞き手は相手への気遣い（反応）が求められていることを察してコメントしているものと理解できる。

文脈のない単独の文からでも、このような推測をもとにすれば、相手への気遣いがどうあるべきか想像がつく。例えば、

(5)

1. 这里的春天有点儿干燥。
2. 他头有点儿痛。
3. 他有点儿不高兴。
4. 我今天有点儿累了。

（《汉语口语900句》第78页）

1は、水分を多く取るなど、乾燥による健康への影響が無いよう気をつけるべき留意点を話し、2、3は話者と聞き手が「彼」に対してどうすべきか、対応を話し合うべきであろう。4は話者へのいたわりが不可欠である。

場合によっては、“有点儿”とともに話者自ら要求を述べることもある。例えば、

(6)

A：您的座位在这边，请系好安全带。飞机就要起飞了。

B：现在可以抽烟吗？

A：请您过一会儿再吸。请先吃糖。

B：同志，有没有开水，我要吃药。

A：请稍等一下，我就去拿。

B：我有点儿冷，能给我一条毯子吗？

A：好的。

B：打扰您了。顺便问一下，飞机中途在什么地方降落？

A：在香港降落，停留一个小时左右。

（《汉语口语900句》第78页）

乗客であるBは、機内で毛布をもらうには何らかの理由が必要であると考え、“有点儿”を使うことにより、聞き手である客室乗務員Aに気遣いをさせる前に自己申告している。機内の温度管理が不適切であることを間接的に非難することにならないよう、むしろ話者は、客室乗務員に気遣いをしている。個人的な理由を述べる、つまり理由付けをしたり弁解するには“有点儿”がふさわしいと考えられる。

[2]

---

話者：1) “有点儿”を用いて理由付けをする

2) ある要求を相手に求める

聞き手：1) 相手のコメントが控えめであることを感じ取り要求に耳をかたむける

2) 要求に快く応じる

---

また、どう反応し気遣いをしたらよいのか、発話の内容が抽象的とも思えるケースも見られる。例えば、

(7)

A：你这么忙，还来送我们，这使我非常感动。

C：为朋友送行还是件愉快的事情。

A：一个半月以来，你帮了我们不少忙，真是太感谢了！

C：照顾不周到的地方，一定不少，还请你们多多原谅。

A：哪里，哪里。我们在这里生活得很愉快。

C：但愿如此。

A：在这短短的时间里，我们既提高了汉语水平，又游览了名胜古迹。就要离开这里了，我还真有点儿舍不得呢。

C：学习虽然结束了，我们之间的友谊却是刚刚开始，希望你们有机会再来。

A：我相信，咱们以后能见面的。

C：飞机就要起飞了，准备上飞机吧！

A：你也请回吧。

C：好。祝你们一路平安！

（《口语初步》第30课328页）

短期語学研修を終えた話者Aのことは“还真有点儿舍不得呢”は、空港で別れを惜しんでの発話である。話者の「控えめ」の感想であり、rhetoricの上では帰国を「望んでいない」と取れるが、実際にはそのような内容ではない。無事に帰国できるのはうれしいのだが、さりとて一方で中国への愛着もあり、それらの感情がないまぜになって“有点儿”を用いたものと想像される。聞き手にどうしてほしいという要求が必ずしも想定されていないのは、“还真”とも関係がある。意味は次のように考えられる。

ある程度事前に予想はしていたものの、実際にその時になってみると、やはり些か名残惜しくて後ろ髪引かれる思いです…。

その結果、聞き手からは気遣いの慰めのことばが話されている。

[3]

---

話者：1) “有点儿”を用いて現在の心情を述べる

2) 必ずしも相手の反応を求めない

聞き手：1) 相手の心情を察する

2) 気遣いのコメントを発する

---

伊地智2002②との関連性がうかがわれる例である。

## 2.2 「その他」の事例

次に、相手への気遣いを必ずしも求めてはいないと考えられる例について検討してみることにしたい。伊地智2002では②に該当する。以下、品詞ごとに分

け整理することにしたい。今回調査を行ったテキスト類に用例は見られず、下記用例はいずれも小説からのものである。主に老舎の作品を中心に調査を行った。

## 2.2.1 形容詞

例えば、

(8) 高个子有点得意，可又惭愧似的，叹了口气。(《骆驼祥子》144页)

(9) “…。在街上，有多少人指着我的后影叹气，可是我到底是自由的，有时后我与些打扮得不漂亮的女子遇上，我也有些得意。…”(《微神》136页)

(10) 林先生一边有点高兴，一边却也看着心惊，他估量“这样的好生意气色不正”。(《林家铺子》137页)

(11) 老李有点高兴；大嫂既肯认菱作干女儿，菱必是非常的可爱，有许多可爱的地方他自己大概还没看到。(《离婚》73页)

“得意”と“高兴”について、「好ましくない」、「困っている」、「困或」、「不本意」などの意味はうかがえない。「少し」、「些か」など程度について述べようとし、それが「比較」表現となることを避ける目的で“有点”あるいは“有些”を用いたものと考えられる。程度副詞と考えてよいケースである。

“有些”とともに用いられる例であるが、“重要”“特別”など積極的に評価しようとする語が表われるケースも見られる。例えば、

(12) 他觉得他有些重要，有些生趣。(《离》63)

(13) 油味，对于老李，也有些特别。(《离》113)

「色彩」について、話者のマイナスの感情を排した例も見られる。例えば、

(14) 太阳还在西边的最低处，河水被晚霞照得有些微红，他痛快得要喊叫出来。(《骆》32)

## 2.2.2 動詞

動詞については、意味に応じて更に分類することができる。

### 2.2.2.1 心理活動

“可爱”、“喜欢”、“爱上”、“爱”など。例えば、

- (15) 特别是对那些同行的，现在都似乎有点可爱。(《骆》86)
- (16) 生命的延续不过是生儿养女，祥子心里不由的有点喜欢，即使一点也不需要一个小孩子，可是那个将来到自己身上，…。(《骆》177)
- (17) 连我这老头子都有点爱上她了，不为别的，她真会骂。(《柳家大院》162页)
- (18) 因此，他慢慢的有点爱妈妈了。(《牛天赐传》453页)

#### 2.2.2.2 思考

“觉得”、“懂得”など。例えば、

- (19) 祥子活了心，还有点觉得对不起曹先生，…。(《骆》113)
- (20) 他现在有点懂得林先生之所以被捕了。(《林》142)

#### 2.2.2.3 判断

“像”、“相似”など。例えば、

- (21) 他确乎有点像一棵树，健壮，沉默，而又有生气。(《骆》6)
- (22) 从赤道附近的浓艳中减去阳光，也有点像它，…。(《微》128)
- (23) 天赐摇起来，果然是脱了俗气，和吕洞宾有点相似！(《牛》519)

“像”に関しては、示唆的な例が見える。“有点”あるいは“有些”の解釈に  
適応できるか検証する必要があるが、有力な手掛かりとなるように思われる。

例えば、

- (24) 不过，她虽然长得美，打扮得漂亮，可是他不知为何一看见她便想起虎妞来；她的身上老有些地方像虎妞，不是那些衣服，也不是她的模样，而是一点什么态度或神味，祥子找不到适当的字来形容。(《骆》190)

#### 2.2.2.4 身体部位の動作

“哆嗦”、“颤”、“抖”、“哽咽”など。例えば、

- (25) 祥子看得清清楚楚，递过那一毛钱的时候，太太的手有点哆嗦。(《骆》46)
- (26) 妈还是一声没出，她的手有点颤。(《月牙儿》5页)
- (27) 丁二爷的手伸入夏布大衫，摸了半天，手有点颤，摸出張折着的厚桑皮纸，…。(《离》252)

(28) 林先生脸色变了, 嘴唇有点抖。(《林》126)

(29) 林先生终于斗气似的说, 声音有点哽咽。(《林》111)

手、唇がふるえる、声がふるえるなど、「困った」、「望ましくない」とも思われる描写であるが、「ちょっと」、「少し」を表現する手段としては、重畳型や“一下”、あるいは“一点儿”を選択することができない統語的制約のため、“有点”が結果的に用いられているものと考えられる。語法的に動詞はハダカで用いられて「動作」を示しているが、実際の意味は「～ている（進行）」。

### 2. 2. 2. 5 身体部位の状態

“爬爬着”、“撇着”、“抬不起脚来”など。例えば、

(30) 牛老者的样子不算坏, 就是不尊严, 圆脸, 小双下巴, 秃脑顶, 鼻子有点爬爬着, 脑面很亮, 眼珠不大灵动, …。(《牛》380)

(31) 近来大家对老李很不满意, 于是借着机会来讨论他, 嘴都有些撇着。(《离》246)

(32) 拉惯了车, 空着手儿走比跑还累得慌; 末一趟回来, 他, 连他, 也有点抬不起脚来了。(《骆》117)

やはり上記と同様の理由で“有点”“有些”が選択されたものと考えられる。地の文の客観的描写の中で用いられており、文脈からは必ずしも「困った」状況を積極的に読み取る必要はないであろう。

## 3. 発話の意図

コミュニケーションの手段としての「ことば」には様々な方法がある。対話のルールが信頼関係の下に構築されているという前提があれば、事柄のすべてを詳細に言及するやり方以外にも、言外の意味を相手に推測させる方法も有効に機能することがある。

相手に配慮した控えめな（直截的ではない）コメントを、聞き手がさらに斟酌し察して反応する。反応が行動となって現われるためには、行動は具体性をもった動作、行為であることが条件であろう。これには、ことばによる気遣いも含まれる。

“有点儿”は、こうしたコミュニケーションの方法を特徴的に有していることから、そのはたらきを理解し、効果的に用いれば、細やかなところの交流が生み出され、より円滑な対人関係へと発展することが期待される。例えば、

有点儿冷。

dialogue における実際の意味は、相手への何らかの反応を求める発話であり、この発言を受けた人は次にどうするか（窓を閉める、エアコンを止める、暖かい飲み物をすすめる、何かを着せる、体調を尋ねるなど）考えなければ、対話は成立しない。

小説など書面語における“有点儿”の使用は、不特定多数の読者を対象とすることから、双方向の対話が不可能である。その結果、読み手に「気遣い」を求めることがそもそも非現実的であり、dialogue におけるのと等価の機能は果たし得ないことがうかがえる。“有点儿”の性質を考える上で、対話か書面かの差異は極めて重要であるように思われる。

#### 4. おわりに

統語的特徴、辞書的意味は分かっているとしても、その語をどう効果的に、有効に使うか要領を得ず、隔靴搔痒の感を免れないことがしばしばある。話者（相手）の心理をつかみ、発話の意図を理解することによって初めて可能となる事柄である。

多くの方には経験上、感覚的に分かっている事でも、分析的に記述しないと初学者には理解が困難な場合があり、小稿が取り上げた“有点儿”もその一例ではないかと考える。今回は文字資料についてのみ分析を行い、話者の心理状態を場面ごとに詳細に観察する作業はしていない。音声資料を活用することによっても、さらに精確な記述が可能になるのではないかと考えるが、それは今後の課題としたい<sup>(注8)</sup>。



## 注

- 1) 張黎・佐藤晴彦・内田慶市1997 (p. 39) は、次のような対立する構造を想定して両者の差異を説明しようとする。例えば、

A類：“有点儿 + X”

話し手がすでに起ったことがらに対して評価をあたえ、しかもそのことが好ましくないという意味を含む

B類：“X + 一点儿”

まだ起こっていないことがらに対する話し手の願望や命令の気持ちを示し、しかもそのことがらが起ることを歓迎する、喜んでいるという意味を含む

B類に関して「そのことがらが起ることを歓迎する、喜んでいる」の意を含むか否かは、意味領域をめぐる議論の余地があろう。

- 2) 同様の記述は《現代汉语词典(修订本)》1996年商务印书馆刊 (p. 1527) にも見られる。例えば、

副词，表示略微；稍微（多用于不如意的事情）：今天～不大高兴—这句话说得～叫人摸不着头脑。

また、辞書、教科書によっては「望ましくない」、「好ましくない」等の表現を用いることが多い。

- 3) 発話の意図を理解しようとする目的から、小説類の地の文の用例にまでは範囲を広げないことにしたいと考える。
- 4) 「見たことがあるのに、すぐには思い出せない」でいるとすれば、話者の“不如意”な感覚を読み取ることができる。「行きたくもあり、でも一方であまり気がすすまない」とすれば、話者の決断しきれないもどかしさが“不如意”な感じとしてにじみ出ている。語彙そのものが「消極的（内容）」であるわけではない。
- 5) 検索は2003年7月中に google を利用して試みた。

“有些”についても検索を行ってみたが、用例数が少なく、現われる語句のバリエーションも限られ、ほぼ“有点儿”の範囲に包括されると考えられ

る。例えば、

---

变异 不安 不对 不可用 不明白 不太寻常 不同 不稳定 不寻常

吃不准 迟

颠

发黄 疯狂

糊涂 荒唐 回落 灰心 昏

紧张

夸大 困

老了 冷 乱 乱回复

难过 闹

疲惫

杞人忧天

让人琢磨不透 冗长 弱

上仰 酸溜溜

太乐观 特别 痛苦

无奈

详细 心酸 悬

遗憾 隐痛 与众不同 远

在乎 脏

---

6) 《口语习惯用语功能词典》(p. 231) に依れば、

指出人或事务在某方面不能令人满意、不正常；为了减少刺激或留有余地，  
将不便明说之处，婉曲地以“那个”代之。

と述べる。

7) 語気によっては「不満」とも「遠慮」とも取ることができよう。

8) grammaticalization (“語法化”) という観点から“有点儿”について通時的に記述することも求められるであろう。段階としては、まず動賓構造を

作る“有些”の存在があり、機能語化が進むのと並行して動賓構造を作る“有点儿”が派生し、機能語化が起ったものと考えられる。“些”と“点”の分布とも関わってくる。

早期白話における“有些”の例は《水滸傳》に見え、用例数は少ないが、現代漢語との連続性を窺うことができる。例えば、

朱全方才有些放心。(第52回, 第769页, 第9行)

关胜看了, 有些面熟, 灯光之下, 略也认得。(64, 954, 16)

数内一个庄客相了一回, 认出道: “有些像东村头会粘雀儿的王小二。”(73, 1073, 13)

## 参考文献

- [1] 相原茂・石田知子・戸沼市子1996『WHY?にこたえるはじめての中国語文法書』、同学社。
- [2] 張黎・佐藤晴彦・内田慶市1997『中国語表現のポイント99』、好文出版。
- [3] 吕叔湘1999《现代汉语八百词(增订本)》、商务印书馆。
- [4] 常玉钟1993《口语习惯用语功能词典》、北京语言学院出版社。
- [5] 大島吉郎1998『容與堂本「水滸伝」語彙索引』、近代漢語研究会。

## 引用書目

- 《骆驼祥子》、老舍著、人民文学出版社、1978年。《骆》
- 《微神》、老舍著、河北人民出版社《微神集》所收、1981年。《微》
- 《林家铺子》、茅盾著、人民文学出版社、1978年。《林》
- 《离婚》、老舍著、人民文学出版社、1981年。《离》
- 《柳家大院》、老舍著、河北人民出版社《微神集》所收、1981年。《柳》
- 《牛天赐传》、老舍著、人民文学出版社《老舍文集》第二卷所收、1981年。《牛》
- 《月牙儿》、老舍著、河北人民出版社《月牙儿》所收、1981年。《月》
- 《容与堂本水滸传》(上・下)、上海古籍出版社、1988年。